



思い出の了凡代心

第16回、秋田国体は秋田市を中心に昭和36年10月8日から6日間にもわたって開催された。

大館会場では、バレーボール、テニス、バスケットボールが行なわれ、約1,500余名の選手たちが、各競技に熱戦をくりひろげたことは、6年を経た現在でも記憶に新しいものがあります。

市民総参加のもとに、来市する選手を暖く迎えるとともに、競技場においても府県の別なく声援した市民の姿は国体の成功に大きなさざえとなったのです。

同年10月11日には天皇、皇后両陛下がお揃いでお成りになり、大館会場は最高潮に達し、まちは国体一色にぬりつぶされました。

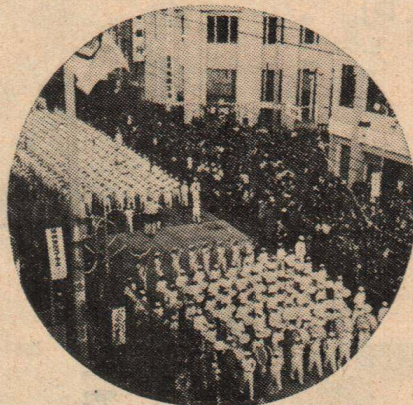
とにかく、各県の選手たちから大好評を得たあの国体の陰には、大火等で貧乏しているにもかかわらず、来市する選手たちを暖い心で歓迎しようという市民性と、スポーツに対する深い関心が、全市民にあったからだと思えます。

そして、この大会を通じ、大館市民は「やればできる」という自信を得たことは、大きな収穫であったと思う。

「別れの曲」で大館市をあとにした選手たちは、いまごろ、キリタンポの味や友情に結ばれた市民の顔々を追憶しながら、いまでも活躍していることでしょう。



天皇、皇后両陛下秋田犬を鑑賞



鼓笛隊の歓迎パレード



女子バレーボールの熱戦



心よく選手を迎えた婦人会の風景



10月10日には国旗をたてよう

スポーツ週間中央会場を本市で開催